

	保育科 准教授 竹 中 麻 美 子 （たけなか まみこ） TAKENAKA Mamiko
所属	保 育 科
学位	学士（教養）（国際基督教大学）
資格・免許	－
学歴・職歴	<学歴> 国際基督教大学教養学部語学科 卒業（学士（教養）） ロンドン大学ゴールドスミス・カレッジ （Goldsmiths, University of London） ドラマ・アンド・シアターアーツ専攻 ロンドン大学ロイヤル・ホロウェイ・カレッジ （Royal Holloway, University of London） ドラマ、シアター・アンド・メディア・アーツ専攻 <職歴> 1996 年 12 月 株式会社エフエム甲府 制作部（2001 年 3 月まで） 2002 年 4 月 山梨学院短期大学 兼任講師（2007 年 3 月まで） 2004 年 9 月 山梨学院短期大学 事務局課員（2009 年 3 月まで） 2009 年 4 月 山梨学院短期大学保育科 専任講師（2021 年 3 月まで） 2021 年 4 月 山梨学院短期大学保育科 准教授（現在に至る） 2023 年 4 月 山梨学院短期大学 学生部長（2024 年 3 月まで）
担当科目	演劇入門 異文化コミュニケーション 外国語（教職） 家庭問題特論Ⅱ 英語A 英語B 基礎演習 卒業演習Ⅰ 卒業演習Ⅱ
専門分野	舞台芸術 英語コミュニケーション
現在の研究テーマ	異文化コミュニケーションへの興味を深め、外国語学習の意欲を高めるために役立つ学習素材の検討と授業展開の工夫
競争的資金等の研究課題	－
所属学会	日本保育学会 日本保育者養成教育学会 日本英語圏児童文学会 日本シェイクスピア協会 Society for Emblem Studies 日本支部
メッセージ	学生生活は自分のやりたい研究、サークル活動、いろいろなことに思いっきりチャレンジできる時です。失敗を恐れず、自分自身の可能性をたくさん見つけてください。皆さんのさまざまな挑戦を心からサポートし、応援しています。

教育		
2024 年 4 月～2025 年 3 月		
教育方針		様々な価値観、文化的背景を持つ人とのかかわりの中で成長し、グローバル社会で生き抜く力を持つ若者の養成
授業	授業の工夫	<演劇入門> 演劇作品の鑑賞や文学作品の読解・発表を通して、表現力の向上を目指す。ボイストレーニングや即興演技のレッスンも行い、グループに分かれて作品を実際に演じ、鑑賞し合うことで、作品の時代背景や登場人物の性格、感情などをより深く理解できるよう工夫している。 教職員や学生を対象とした発表会を企画し、小道具、衣装、ポスター製作なども学生が手掛け、実演、好評を得た。学生からは、「演じる経験ができてよかった」や「知識だけではなかったのとても楽しかった」など、発表の機会を評価するコメントがあった。 <異文化コミュニケーション> 留学生や国際交流員、海外在住経験のある方にゲストスピーカーとして様々な国の文化を紹介していただき、学生と直接話をする機会を設けている。学生が国際交流イベントに積極的に参加し、実際に体験する異文化に対する学びを大切にしている。学生からも、「多国籍の方々と交流する機会は普段なかなかないため、とても貴重な経験になりました」や「知らなかった外国の文化や礼儀などをこの授業を通していろいろ知れた」などのコメントがあった。また、普段当たり前すぎて気付かない自国の文化について知る機会も作り、「日本人でも日本の文化に、知らないことが多く、改めて知ることができました」とのコメントもあった。 <外国語（教職）> 英語を使ってコミュニケーションをとる機会を増やすため、プレゼンテーションや参加型の学びの機会を多く取り入れた。英語絵本の朗読や早口言葉、手遊び、歌遊びなど、楽しみながら英語に触れる教材を多く活用した。 小グループでひとつの教材と向き合い、理解を深める取り組みを行った。他グループの発表を見て声かけの方法などを学ぶことも多く、意欲的に活動する学生の姿が見られた。 <英語A> 英語が苦手、英語は嫌い、という意識を変革することに力を入れている。内容を知りたい、使って楽しい、相手に伝わって面白い、という経験を積むことで、苦手意識を克服し、表現手段としての英語力をつけることを目指している。英語圏のヒットソングをテキストとして活用することで、等身大の若者の感情を表現する語彙や文化的な違いをより分かりやすく理解できるよう工夫した。 <英語B> 食物栄養科、保育科、それぞれの学生の興味関心を高めるような教材を取り入れている。それぞれの学生の専門分野について今日的な話題にあふれた素材を新聞、雑誌、メディア等から取り入れ、活用している。食育をテーマにしたドキュメンタリー番組を教材として取り上げた際には、日本との違いに驚く学生が多く、英語をとおして文化の違いについて考えるきっかけとなった。 アクティブ・ラーニングとして、友達との学び合いの時間を取り入れた。時には同じ間違いをすることで自分と友人の弱点を知り、新たな学びにつながったという学生が増えた。

教育（つづき）		
2024 年 4 月～2025 年 3 月（つづき）		
授業（つづき）	授業改善のための取組	これまでも WebClass を活用した授業展開を工夫しているが、さらに毎回の授業の振り返りを学生自身が入力し、総括の授業の際に一枚の用紙に印刷し、自身に身に付いた力を可視化する（OPP）資料作成にも取り組んだ。これを行うことで、学生自身が授業のねらいを理解し、どこまで自身の学力が身に付いたかを実感することができた。 外国語の授業では、この部分を英語で記述する取り組みも行い、全員ではないものの、多くの学生が自身の考えを英語で表現することに挑戦した。 また、引き続き WebClass のアンケート機能を利用し、問題演習の際、学生の選択肢をグラフで提示、リアルタイムで変化する回答を速報することで学生が楽しみながら学びを深めることができた。自分と同じように間違った回答をする学生がいること、そして誤りに気付いた時点ですぐに修正をすることで学習効果の向上を図ることができた。 留学生や他学部の学生と交流する場が少なく、英語を話す機会や友達作りの機会のない学生に対し、学内外で実施されるイベントや交流会への積極的な参加を促した。
	ゼミ活動（卒業演習）（修了研究）	学生自身が自ら課題を見つけ、探求したいと考えるテーマで研究を進められるよう支援している。学生の自主性を重んじることを大切にゼミ活動を行っている。自ら興味のあるテーマを見つけるために、様々な経験ができるような活動を多く計画し、それぞれの研究や活動の課題、実習での学びを発表する場を多く設け、プレゼンテーション能力やコミュニケーション能力を上げていくための工夫をしている。 2024 年度は、子ども向けの食育教材をペープサートで制作、実際に保育園に足を運び、子どもたちの前で実践研究を行なった。また、留学生対象の食育教材の開発にも取り組み、日本の朝食をテーマに、オリジナルのストーリーを考え台本を制作、それをもとにキャラクターや小道具を製作、練習を重ねて上演をした。
ゼミ	卒業レポート・修了研究テーマ	・今日の性の多様性を考える　ー昭和と平成の恋愛ドラマの比較ー ・日本の英語教育と実用性の乖離について - ーグローバル社会に向けた課題と可能性ー ・メイクとファッションが人に及ぼす影響 ・恋愛のコミュニケーション学 - ー現代における若者の男女の価値観の違いー ・ペープサートの効果と可能性 - ー子どもや留学生に対しての実践をもとにー ・現代日本に韓国文化が与えた影響 - ーメイク・ファッション・言語に注目してー ・日本のアニメ文化の歴史について　ー作画に注目してー ・海外の方々が日本のアニメやマンガに惹かれるのはなぜか - ー来日外国人へのインタビュー調査からー ・MBTI と恋愛の関係性について - ー性格を 16 タイプに分けたそれぞれの相性についてー

教育（つづき）		
2024 年 4 月～2025 年 3 月（つづき）		
ゼミ（つづき）	卒業レポート・ 修了研究テーマ	・今日の性の多様性を考える　－昭和と平成の恋愛ドラマの比較－ ・日本の英語教育と実用性の乖離について －グローバル社会に向けた課題と可能性－ ・メイクとファッションが人に及ぼす影響 ・恋愛のコミュニケーション学 －現代における若者の男女の価値観の違い－ ・ペープサートの効果と可能性 －子どもや留学生に対しての実践をもとに－ ・現代日本に韓国文化が与えた影響 －メイク・ファッション・言語に注目して－ ・日本のアニメ文化の歴史について　－作画に注目して－ ・海外の方々が日本のアニメやマンガに惹かれるのはなぜか －来日外国人へのインタビュー調査から－ ・MBTI と恋愛の関係性について －性格を 16 タイプに分けたそれぞれの相性について－
課外活動		短期大学芸能部顧問として軽音部門の学生の音楽活動を支援している。学部と合同で行う活動が多いので、短期大学生と学部生の橋渡しの役割も担っている。また、クラブ紹介等のイベントで部が所有する音楽機材を提供することで学友会の活動をサポートしている。 芸能部演劇部門の顧問として、学生の演技指導も行っている。2024 年度は樹徳祭公演に脚本を提供、県内の演劇関係者も多数訪れた。卒業公演をメモリアルホールにて行い、好評を得た。 古典芸能部顧問として、伝統芸能を学ぶ学生の支援にも力を入れている。外国人留学生と交流する機会の少ない短期大学生に、古典芸能を通して外国人留学生と関わる機会を多く設けている。2024 年度樹徳祭では、ステージ 21 で行われた発表会で短大学生とともに外国人留学生の発表をサポーした。 2024 年夏には、県立図書館にて開催された親子能教室の運営に参加、学生とともに、貴重な能面を子どもたちが実際に付け、謡や仕舞を体験する講座の支援をした。

教育（つづき）	
2024 年 4 月～2025 年 3 月	
主な教育業績	・ 2024 年度 11 月 卒業演習Ⅱの一環として、ペープサートで未就学児対象の食育教材「食育ロケット」を制作、保育所で上演した。 ・ 2024 年度 11 月 異文化コミュニケーションの一環として、iCLA（山梨学院大学国際リベラルアーツ学部：通称「International College of Liberal Arts」）言語学習センターLAC（Language Acquisition Center）の国際交流イベントにおいて、日本の文化を体験する活動を企画、折り紙や着物体験、福笑いなど、日本文化を留学生や外国人教職員に紹介した。 また、和装文化と紅葉狩りを外国人留学生に紹介するイベント「紅葉さんぽ」に参加し、外国人留学生に着物の素晴らしさや紅葉の美しさを紹介、学生と外国人留学生との交流をサポートした。参加した学生は、英語で日本文化を紹介することの楽しさと難しさを経験した。 ・ 2024 年度 7 月～8 月 演劇入門の一環として、21-403 大演習室（ダンス室）にて、朗読劇「はだかの王さま」（アンデルセン原作）、アゴタ・クリストフ作「エレベーターの鍵」、シェイクスピア原作「夏の夜の夢」をアレンジした「恋する若者たち」を上演した。 ・ 2024 年度 6 月～7 月 iCLA LAC での国際交流イベント 0 Chat Time に学生有志と参加、留学生とともに新茶と和菓子を味わいながら交流をしたり、日本の伝統的な遊び（早口言葉、トントン相撲、かるた、坊主めくりなど）を留学生と遊ぶという企画に参加した。参加した学生は、英語力をもと向上させ、留学生と交流したい、と感想を述べた。

教育（つづき）	
2024 年 3 月以前（つづき）	
主な教育業績（つづき）	・ 2023 年度 卒業演習Ⅱの一環として、食物栄養科と合同の高校生対象の食育活動「チームシャンドマルス」に参加し、朝食の大切さについて学ぶ教材を制作、パネルシアターで上演した。 ・ 2023 年度 異文化コミュニケーションの一環として、iCLA LAC での国際交流イベントにおいて日本の文化を紹介する活動を企画、お手玉やかると、福笑いなど、伝統的な日本の遊びを留学生や外国人職員に紹介した。 また、和装文化と紅葉狩りを外国人留学生に紹介するイベント「紅葉さんぽ」に参加し、外国人留学生に和装での立ち居振る舞いや日本の四季の美しさを紹介、外国人留学生と積極的に交流しながら今まで気付くことのなかった日本文化の魅力を再発見した。 ・ 2023 年度 メモリアルホールにて実施された専攻科保育専攻 1 年生によるオペレッタ「ぐりとぐら」の演技指導を行った。 演劇入門の一環として、サザンタワー 3 階のレインボープラザ（ラウンジ）にてオカモト 國ヒコ作「1 本のロープ」、21-403 大演習室（ダンス室）にてシェイクスピア原作「夏の夜の夢」をアレンジした「恋する若者たち」を上演した。 ・ 2022 年度 「みんなの地域食堂」において、保育現場などで栄養士として働いている方々に、子どもを対象とした食育活動「食育ロケット」を紹介した。 ・ 2021 年度 「山梨の食材で、寒さに負けないからだづくり」において、小学生を対象とした朗読劇「はだかの王さま」を上演した。 ・ 2021 年度 山梨学院幼稚園アルテア子ども館にて、未就学児を対象としたクリスマス朗読劇「くるみわり人形」を上演した。 ・ 2020 年度 卒業演習Ⅱの一環として、ゼミ生がクリスマス・トリップという異文化紹介イベントを実施した。 ・ 2019 年度 卒業演習Ⅰでゼミ生が山梨学院小学校トワイライトスクールにおいて朗読会を行った。 ・ 2019 年度 卒業演習Ⅰでゼミ生が iCLA 言語学習センター LAC の国際交流イベントにおいて日本文化紹介「着物の文化体験講座」と「折り紙体験講座」を行った。また、食物栄養科の日本食紹介のサポートを行った。 ・ 2017 年度 卒業演習Ⅱでゼミ生が外国人留学生に向けた日本昔話の人形劇を上演した。 ・ 2017 年度 卒業演習Ⅰでゼミ生が山梨学院総合図書館において幼稚園児に向けた絵本の読み聞かせイベントを行った。 ・ 2006 年度～2016 年度 保育科オペレッタ上演の脚本、演出指導を行った。2013 年度には、舞台制作の様子がテレビ局の取材を受け、放送された。

研究		
2024 年 4 月～2025 年 3 月		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
—		
2024 年 3 月以前（主なもの）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） 英語を「聞く力」「話す力」の向上を目指した授業実践（第 2 報）－英語特有の発音「l と r の違い」に注目して－ （単著）	2022 年 3 月	山梨学院短期大学研究紀要 第 42 巻
（学術論文） コロナ禍における子ども食堂の課題－文献調査から見えてくる状況と問題点－ （共著）	2022 年 3 月	山梨学院短期大学研究紀要 第 42 巻
（学術論文） 小学校英語における「聞く」・「話す」ことから「読む」・「書く」ことへの展開 －複数の領域をつなげる“コミュニケーション”に注目して－ （単著）	2021 年 3 月	山梨学院短期大学研究紀要 第 41 巻
（学術論文） 英語を「聞く力」「話す力」の向上を目指した授業実践（第 1 報）－英語特有の発音“th[θ]”獲得の試み－ （単著）	2021 年 3 月	山梨学院短期大学研究紀要 第 41 巻
（学術論文） 小学校の英語教育に関する教育方法論的考察－A 小学校の授業観察と教諭インタビューから－ （共著）	2021 年 3 月	山梨学院短期大学研究紀要 第 41 巻
（学術論文） テレビ番組を活用した英語授業の展開 第 2 報 ー食育番組をリスニング素材として使用した授業実践をもとにー （単著）	2019 年 3 月	山梨学院短期大学研究紀要 第 39 巻

研究（つづき）		
2024 年 3 月以前（主なもの）（つづき）		
タイトル（単著・共著）	年月日	発行所、発表雑誌、発表学会等
（学術論文） テレビ番組を活用した英語授業の展開 第 1 報 ―料理番組をリスニング素材として 使用した授業実践をもとに― （単著）	2018 年 2 月	山梨学院短期大学研究紀要 第 38 巻
（その他：研究発表） 観客としての子どもの反応についての一考 察 （単独）	2016 年 5 月	日本保育学会 第 69 回大会
（その他：研究発表） 子どものための舞台制作―脚本作りを通し た学び― （単独）	2012 年 5 月	日本保育学会 第 65 回大会
（その他：翻訳） 「日本料理と山梨県の郷土料理」 （単独）	2010 年 3 月	山梨学院短期大学食物栄養科

社会貢献
産官学連携、高大連携、研修会講師、学外委員会活動、学会活動、講演会、等
2024 年 4 月～2025 年 3 月
・ FM 甲府子育て支援番組ディレクター（1997～2024）
2024 年 3 月以前（主なもの）
・ 大学コンソーシアムやまなし主催「やまなし留学生スピーチコンテスト」 実行委員（2011～2023） ・ 山梨県子どもの夏休み期間の生活リズム改善作戦ー県産食材を使った食育と食支援による地域活性化ー（地域連携事業支援プロジェクト）に参加（2020～2022） ・ FM 甲府生涯学習の時間 聞き手（2009～2020） ・ 山梨学院生涯学習センター主催（2021 より山梨学院総合図書館主催）「日本文化ワークショップ」コーディネーター（2018～2022） ・ 山梨学院生涯学習センター主催「やまなし学研究」 コーディネーター（2018） ・ 山梨学院大学文化交流センター・山梨学院生涯学習センター主催「日本語スピーチコンテスト」審査員（2016） ・ 山梨学院生涯学習センター 紀要編集委員（2015～2020） ・ 山梨学院生涯学習センター主催「ワイン講座」 コーディネーター（2011～2020） ・ 山梨学院生涯学習センター主催「英語ワークショップ」 コーディネーター（2011～2020） ・ 山梨学院生涯学習センター・山梨学院国際交流センター主催「英語スピーチコンテスト」審査員（2010～2020） ・ FM 甲府ラジオ番組「生涯学習の時間」 聞き手（2009～2020） ・ 大学コンソーシアムやまなし主催「山梨県大学ガイダンスセミナー」 実施委員（2017～2019） ・ 大学コンソーシアムやまなし主催「学生イニシアティブ事業」 審査員（2016～2019） ・ 大学コンソーシアムやまなし・山梨学院生涯学習センター主催「県民コミュニティーカレッジ」コーディネーター（2013）
受賞 ※個人、所属団体
・ 山梨学院学生チャレンジ制度採択（食物栄養科有志・竹中ゼミナール「チームシャンドマルス」）（2023） ・ 山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞社会活動部門受賞（学友会執行部）（2022） ・ 山梨学院学生チャレンジ制度採択（竹中ゼミナール「七タクイズチャレンジ」）（2022） ・ 山梨学院学生チャレンジ制度採択（学友会執行部「おはなしかい」）（2022） ・ 山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞社会活動部門受賞（竹中ゼミナール）（2020） ・ 山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞社会活動部門受賞（竹中ゼミナール）（2020） ・ 山梨学院学生チャレンジ制度採択（鈴木・竹中ゼミナール有志）（2019） ・ 農林水産省 第3回食育活動表彰「教育関係者・事業者部門消費安全局長賞（2019） ・ 山梨学院スチューデント オブ ザ イヤー賞社会活動部門受賞（竹中ゼミナール）（2018）